

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370106332		
法人名	社会福祉法人 岡山中央福祉会		
事業所名	グループホーム さっちゃん家		
所在地	岡山市東区金田819		
自己評価作成日	平成23年12月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3370106332&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	平成23年12月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの思いをくんだケアに心掛けている。その時々、利用者の望みがかなえられるような支援を行っている。地域の行事などを通じて、地域の方々とはふれ合うことで気軽に訪問していただいている。また、「庭の菊が咲いたから・・・」とお誘いしてもらうなど、こちらから伺う地域交流ができています。決められたスケジュールでなく毎日をのんびりと暮らしておられます。今年度からレク、環境、接遇委員会を設け職員全員で取り組みモチベーションを高めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成16年6月の開設以来8年目の運営に入っている。その間、地域との関係は設立準備段階から大切にしてきた典型的なモデルとなる存在で、それは今でも継続し、大きな行事は常に近所の人々や友の会、幼稚園、小学校等の子供達そしてボランティアの多くの人々が参加して利用者を盛り上げていて、設立当初から現在の制度である運営推進会議を先取りした存在である。社会福祉法人の母体もこのホームの運営の自主性を重んじており、ホーム長や職員のケアやサービスに対する考え方、実施内容もグループホームの生活重視、本人本位の気持を重視した生活が出来ている。8年目に入って“みんなおいでよ”というグループホームの生活を写真一杯で紹介した小冊子を発行した。「いつまでも らしくあるために・・・」の理念を確認するための一つの通過点の印となるのであろう。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員で立てた理念を基に利用者1人1人の生活リズムに合わせ尊重された支援を行っている。又、地域との共生、交流に努めている。	「その人らしく生活する」という考え方を実践していることはずっと続いていることであるが、もう8年目と言う設立以来の年月を経験しているので、職員一人ひとりの自主的な管理と利用者寄り添った気持の大切さを目標管理的な手法で実践している。	自己評価の(2)～(22)項目の実践が積み重なってホームの掲げた理念は実現できるものだと思う。この項目の重要度の強弱はあるが、理念の達成度は年次として総合的に具体的に評価するような習慣づけをしてもらいたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の一員として地域の行事に参加したり、ホームの行事に多数の地域の方が協力して下さる。庭の草取り、剪定なども定期的に協力をもらっている。	設立前を含めてこのホームの7年間の経過の中で地域の人々や幼稚園・学校との付き合いは地域密着型サービス提供の事業所としては模範となるべく価値ある行動をしている。地域と共に歩んできたと評価できる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常的にホームへ来所してもらい認知症利用者と直接関わっていただき、ホームでの日頃の支援を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	内容の報告を行い、さまざまな面でアドバイスをうけている。車椅子体験を通し身近になっていただく。毎月、介護保険課の方に出席してもらえ相談もしやすくなった。助言もいただける。	毎回、地域の色々な役職の人々、友の会、家族代表、市担当課の職員、そして母体法人の理事長やホーム長が集まって、報告や意見交換を活発にしており、雰囲気や内容的にも充実した有意義な運営推進会議を開催している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらいホームでの実情や取り組みを伝えている。	日頃から岡山市介護保険課及び関係窓口、地域包括支援センター等と色々な点で相談しており、指導を受けて綿密な関係を保っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の学習だけにとどまらず言葉による拘束についての学習をすすめている。また、育成面談などで機会を設け振り返りを行っている。	法人全体で自己評価、目標管理的な申告、面談によって自己研鑽する制度があり、その中に利用者への関わり方等具体的な問題、課題を話し合える機会がある。パート職員についても簡単な様式と内容であるが、このような制度で気持ちを一つにすることができる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議で学習し、虐待が見過ごされることがないように接遇委員会で防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、地域包括支援センターと連携し必要に応じて成年後見制度の利用を支援しました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書類全てにおいて文章を見ながら丁寧に説明し、本人又は家族の同意を得る様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが、面会のおりに殆どの家族から担当職員に要望などを伝えてもらっている。	運営推進会議でも家族代表は家族全体の立場からホームの運営やケアに関して発言している。又、家族は良くホームを訪問しているが、どの家族も利用者全体にも馴染んでおり、ホーム長や担当職員とざくばらんに話し合える関係にあり、申し分ない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年度末には総括を行い、次年度の方針を職員全員で決めている。業務・ケア改善提案書を活用したり各委員会での提案により運営に反映させている。 (22・目標計画達成)	日常の勤務の中で職員は利用者の事、家族の事、仕事の事等何でも話し合える雰囲気がある。どの職員も明るく活気に満ちた雰囲気で行っているし、勤務帯の中及び勤務外でも利用者の為に自分の労を惜しまない気持の職員ばかりである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業に規則を定め、組合と交渉を持っている。管理会議では、職場の状況把握をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本人を知るためにアセスメントをしている。法人内研修は、必ず受けるシステムがあり、職員の希望があれば外部研修の機会も多いにつくれる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の集合に参加し交流を行っている。管理者は、ネットワークに入り、質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	特に新規の利用者の方には、不安をやわらげるよう常に見守りながら行動や訴え等に気を配り 声掛け 話しを聞いたり誘導など心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の面会時などなるべく話しをしながら対応している。面会時にご家族が話されたことを共有するノートを作り全員で家族支援に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	毎月手紙を書き、その時の状況を伝えている。出来る限り多く対話を持ちアセスメントをし支援の方法を皆で考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人にとって無理のないように出来る範囲の事を一緒にしている(食事作り・洗濯関係・掃除)など得意な事を活かしてもらう場を作っている。(編み物・折り紙などを利用者がスタッフに教えて下さる。)		
19		職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	なるべく面会に来て頂けるよう声かけたり行事などで一緒に食事をするなどしている。日頃の様子を伝えたり家族から対応のアドバイスをもらったりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの馴染みの美容院へ行ってもらったり 毎週 家に帰られたりしている。	利用者の希望や思いを大切にしているので、希望に沿うよう職員は勤務の内外を問わずそれに報いる事もある。逆に勤務の都合上、それに沿う事が出来ない難しさもある。ホーム長や主任な等の悩めることかも知れない。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで過ごせる場にて 利用者同士で会話をしたり レクリエーションをしたりできている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	安否確認を含め、手紙や電話で連絡し可能な限り関係の継続を図っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いや苦しみ、不安を知ることにより、ご本人のリズムで生活できる支援を心がけています。一人ひとりの気付きシートを利用し、利用者の思いの把握に努めている。	利用者や家族の“真の心”を知る事は、どんな人間関係においても一番必要な事で、生活の満足度を得るための最も重要な課題である。利用者同士のコミュニケーションから、職員と利用者のコミュニケーションの中から“気づきノート”を活用して把握に努めている。	利用者の真の心に気付く事は認知症ケアの最も重要な事であるが、コミュニケーションの中でも行動の中でも職員がどう気付くかが永遠の課題だと思う。心の中及びその人の真の心を極める術を磨いて欲しい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや生活歴など情報収集に努め様々なエピソードをきかせてもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンスにおいて、生活リズムを理解し、出来ること・出来ないことに注目し、全体像の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状を受け止め、本人の言葉や行動を把握し職員間でアセスメントを行いカンファレンスで情報交換し、現状に即した介護計画を作成している。日常の様子を細かくご家族に知らせカンファレンスに反映し、支援の方法をご家族に相談している。	日常の利用者の状態や心身の変化等の記録を要領よくまとめ、アセスメントやプランに結び付けてケアマネジメントをし、モニタリングとカンファレンスから次のマネジメントが出来るよう活用している。“その人らしく生きる”の根源がある。	8年目のホームであり、グループホームでは利用者は固定化されているので、アセスメントとケアプランの内容と表現の仕方について少し深化させてもらい、ケアの内容を具体的且つ客観的な表現が出来るようにできればと願う。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別記録の他、毎月各担当が個別状況と気付きシートを記録し、カンファレンスで情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別のニーズに対応し、ご家族と相談の上介護計画を作成し支援を行っている。地域包括支援センター・居宅介護支援事業所等との連携を図っている。(成年後見制度・生活保護・入退去時支援)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の保育園・小学校の行事や祭りに参加したり、ボランティアの支援を多く受けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による月2回の往診があり医師・家族・事業所との信頼もあり適切な医療を受けている。入居前からの医療受診もされている。	地元の提携医との信頼関係はずっと続いており、本人も家族も安心である。医師はその人の状況をしっかり把握し、適切な診察・措置をしてくれ、ホームの職員との連帯も綿密に出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護に来てもらい、利用者の情報を伝え指示を仰いでいる。急変の場合、電話連絡し訪問してもらっている。訪問看護と主治医との連携も図れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	家族や病院機関と連絡を密に取り合っている。退院時には利用者やご家族が安心できるような体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の面会時に日常の様子と今までの経過を説明し、今後考えられる可能性を説明し今後の方向性を検討していく。関係者との連絡・調整を行っている。	利用者と家族の思いを最後まで大切にする。その人らしさの尊厳を大切に重要な事であり、家族ともよく相談し、主治医の判断によって、その人の生き様、死に様をぎりぎりと言うところまでホームで看させてもらうと言う職員の気持がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の研修や緊急時の対応の周知を図る。マニュアルを作成し、周知できるよう取り上げている。(マニュアル有り)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難方法・避難場所の確認し全職員に周知している。地域との協力体制も築けている。地域住民との避難訓練も実施している。	災害に対する地元の連帯も地域との付き合いの中に完全に組み込まれており、訓練も他の行事と同じような感覚で協働して行われている。万一火災や地震等の災害時には消防機関の活動の中で関係者の参加が体系化されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者に尊厳を持って暮らして頂けるよう心がけている。委員会の設置(接遇委員会・リスクマネジメント委員会・レクリエーション委員会)学習会の開催している。	職員が思っている事は何でもすぐに話が出来ると言うのが、このホームの一番の特長であり、良いホームと言えるところである。利用者の言えないところまで気が付き、皆で利用者の満足度を追求している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく希望をきいたり判断して頂くために声掛けするが、時間がかかったり、理解が難しい方はその方の好みや状態に合わせて行っている。食事のメニュー買い物の希望にタイムリーに応じるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中はレクリエーションや外気浴などして頂くよう声かけする。「しない」と言われる方には無理にすすめない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面の時に鏡でみて頂いたり、できることはして頂いているが、その日着る服など選んで頂く方とそうでない方がある。散髪など、本人やご家族の好みに合うように聞いている。服など選べる人には選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる人は、準備などよくして頂いている方と出来ない方にはして頂いていない。	訪問の日は“お好み焼パーティ”で、お好み焼の具作りや焼く事等利用者の元気が発揮できる人は全員参加で美味しいお好み焼を作った。そして利用者と職員が賑やかに楽しくお好み焼を食べていたパーティに参加させてもらった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝食・10時・昼食・15時・夕食とその他本人の希望があれば水分摂取して頂いている。栄養バランスに気をつけ、特に塩分など控えなければいけない方など個別対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕は必ず行っている。昼は気にされる方はして頂いている。認知症が進行し拒否が強いご利用者には毎食後、口腔ケアの誘導をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の様子を見ながら身体機能に応じて歩行介助・車椅子誘導している。紙パンツ・パットなどご本人の状態に合わせ選択している。記録等により排泄の間隔等を確認し個々に合わせて対応している。	食えることと共に排泄することも、それぞれの身体機能を発揮する事の重要なポイントであり、排便・排尿もその人らしく発揮できるよう運動・摂水・食成分も含めて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄日を記録し水分補給の徹底と腸の動きを良くするために散歩などしている。排泄間隔を把握し便意のない方へトイレ誘導を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を拒否される場合もあり臨機応変に対応している。身体状態に合わせ、声掛けし、体調に沿った入浴を進めている。	週3回は入浴してもらう事を基本として、その人の気持を大切にしている。必要ある人は足浴をして関節の運動をする人も居る。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。また、希望等を考慮しゆっくりできる午睡の時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時、必ず名前確認を行い誤薬防止に努めている。服薬内容変更時は、全ての職員が把握できるよう、申し送りをして様子観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力を発揮してもらえようお願ひ出来そうな役割を頼み感謝の言葉を伝える。外出や地域の行事に参加等の楽しみごとをしている。好きな喫茶外出や個別外出に対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの能力の応じ習慣や楽しみごとに合わせて個別支援を行う。喫茶店外出・外食・お弁当を持って戸外へ出かける等している。	全体としての外出は利用者の心身能力によって出来なくなっているが、一人ひとりの能力に応じた外出支援をする為に、職員も7人体制にして職員の余力がある時には個別に支援したり、長勤で支援する事もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理できる方は各自で管理し、本人で支払をされることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の希望も有り電話は出来ないかたも居ますが、手紙のやり取りや電話に出てもらう支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関はお花がいつも生けて下さるスタッフがいて、高齢者の居作空間を考慮したフロアにしている。利用者の体調に合わせて室温を心がけている。	訪問した日は、地域のボランティアの応援と合わせて農家の人が材料持ち込みで指導してもらい、お正月のしめ縄づくりを隣のデイサービスのリビングルームで行った。利用者や職員が多く参加して自分の部屋の飾りを楽しく作った。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居場所作りについて、静かに過ごしたい方はテレビの賑やかな所を避けたり、利用者同志で居室での談笑がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族とは、常に連絡を取り利用者の家で使い慣れた物を持参して頂き安心した生活が送れるように支援していたり、愛用品、本人の希望するものを伝えたりしている。季節に応じて衣替えを依頼している。	利用者はリビングルームで過ごす人と、自分の部屋で好きな事をしたり、仲よし同士で話をしたりして自由に過ごしている。行事等以外は利用者は自分の時間と場所を自由に使って自分の生活をしているのがこのホームの特長である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した人が使える高さに物を置いたり廊下に手すりを設置している。洗面所の前に椅子を置き時間をかけても洗面行為ができるようにしている。トイレスイッチが押せない為に自動照明にし、自力排泄できている。		